一般質問

質問した事項 （登壇順）

及川　修一（新　風）	1 被災した事業者の仮設施設利用 2 被災自治体としての役割 3 陸前高田市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと総合戦略
三井　俊介（新　風）	1 水産振興 2 中心市街地のにぎわいの創出 3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の確立
菅野　定（新　風）	1 河川の改修と整備の考え 2 地域おこし協力隊 3 ＪＲ東日本の敷地と接する市道などの整備
畠山恵美子（翔英会）	1 陸前高田市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと総合戦略 2 教育行政
伊勢　純（日本共産党）	1 陸前高田市の子育て支援の取組 2 高田松原津波復興祈念公園などの公共施設への市民意見の反映や防災情報の発信 3 広田地区の新たな県道と市道の接続による避難路の改善
丹野　紀雄（翔英会）	1 民間事業者によって開発された住宅地の課題 2 河川改修事業の進ちょく状況と今後の見通し 3 消防施設復旧の現状
大坪　涼子（日本共産党）	1 県立高田病院の再建・開院 2 最近の介護サービスの現状と対策 3 国保広域化に伴う国保税負担問題 4 市内保育施設の保育士確保
蒲生　哲（新志会）	1 自然環境 2 交通環境と住環境
中野貴徳（至誠会）	1 人口減少と子育て支援 2 地元事業者の活性化
藤倉　泰治（日本共産党）	1 平成28年度決算と今後の政治姿勢 2 災害援護資金貸付 3 小中学校の教員配置と勤務状況

及川 修一
（新　風）

まちの独自性創出は
地域資源を活用していく

質問　まち・ひと・しごと総合戦略で取り組もうとする施策のうち、「たかたのゆめ」と「広田湾産エゾイシカゲガイ」の普及拡大は、持続可能なまちづくりのための生業の創出に向け、本市の特産品として大切なものだが、それぞれ収量確保という課題がある。どのように取り組んでいくのか。

答弁　平成28年度実績で、「たかたのゆめ」の作付農家が50戸、作付面積が52ヘクタール、収量197トンとなっており、それぞれ増加していて、販路も拡大している。

「エゾイシカゲガイ」は、59トンと過去最高の水揚げとなっている。どちらも、陸前高田のオンリーワンブランドとして、一層の普及に努めていく。

質問　「たかたのゆめ」は、そもそもＪＴから、復興のためにといただいた米であるから、小友などの復旧田で作付けできるように望むがどうか。

答弁　復旧田は、地力に問題があり、ＪＴからご協力をいただきながら、地力回復のための調査・研究を行っている。できるだけ復旧田で作付けできるように努めていく。

質問　「広田湾産エゾイシカゲガイ」の安定した収量確保のためには、稚貝の確保が重要だが、ワカメや牡蠣などの種苗と併せて育成する施設を作ることは考えられないか。

答弁　「広田湾産」というブランドの普及のために種苗生産は大切であり、漁協などと相談していく。

質問　本市では、まちの独自性・唯一性創出の点で、「ノーマライゼーションという言葉のいらないまち」を目指している。市内には、障がいを持ちながら美術活動をされる方や、障がい者の作品を収集して、美術館を建設したいと考える方もいる。そのような方や施設は新たな資源となると思うが、支援できないか。

答弁　市内には、障がいを持ちながら素晴らしい絵を描かれる方もいて、作品展を行っている。大切なことと思っているので、応援していきたいと考えている。

新たな資源として期待される「たかたのゆめ」

三井 俊介
（新　風）

水産業振興計画は
本年度末の策定を目指す

質問　水産業振興計画の策定についてはどうか。

答弁　東日本大震災による漁場環境の変化や、少子高齢化等の影響による担い手不足などで、漁業情勢は日々変化している。このような変化に的確に対応する必要があることから、5ヵ年計画での策定を予定している。

質問　海産物の域内消費拡大についてはどうか。

答弁　地産地消や食育の観点からも地元海産物が地元へ還元される仕組みづくりは重要であると考えている。

ワークライフバランスは

質問　ワークライフバランスの確立に向けた施策の進ちょくはどうか。

答弁　子育て応援事業として、妊産婦訪問事業と子育てヘルパー派遣事業を行っている。事業内容は、妊産婦または、乳幼児のいる家庭に対して、助産師や保健師による家庭訪問や、家事支援サービスを提供している。

質問　利用回数や反響はどうか。

答弁　平成28年度の利用状況は、妊産婦訪問事業を68人の妊産婦が利用している。

利用者からは、「数時間の間でも、子育てを支援していただけることによって、休息をとることができるので、ありがたい」などの声が寄せられており、今後も、出産・育児環境の向上を図っていく。

中心市街地の賑わい創出は

質問　「歩いて楽しく、車でも便利なまちづくり」とは具体的にどういうことか。

答弁　歩いて楽しくとは、開放的で立ち寄りたくなるようなお店が並んでいること。

また、車でも便利とは、お店から近い場所に公共駐車場があることと考えている。

特にも、本丸公園通りと鉤型街路に面する出店者の方々には、まちなかの賑わいと連続性や一体感を生み出すため、建物の壁面の位置をそろえること。また、歩行者の安全確保とまちなかの賑わいづくりにつなげるため、建物と道路の間には駐車場を設けないことのご配慮をお願いしている。

広田湾産ホタテで住民と関東圏の中高生との交流